第2節 自然環境

1 多様な自然環境の保全

三豊市は瀬戸内海国立公園にも指定されている海岸線及び島しょ部から、三豊平野の溜池を含む農耕地周辺や市街地及び住宅地、二級河川である高瀬川や財田川の河川流域や丘陵地や山地を含む多様な自然環境を有しています。

(1) 自然公園及び自然環境保全地域等

自然公園には、日本を代表する自然の風景地を指定する国立公園、国立公園に準ずる優れた自然の風景地を指定する国定公園、都道府県の風景を代表する風景地を指定する都道府県立自然公園があります。自然公園は、一定の開発行為を規制することで、風景地を保護するとともに、国民の自然とのふれあいを推進することを目的として、自然公園法及び香川県立自然公園条例に基づいて指定されます。香川県内の瀬戸内海国立公園は昭和9年に日本初の国立公園の一つとして指定され、三豊市では荘内半島の一部や粟島、蔦島等の島しょ部が区域となっています。

香川県自然環境保全地域は、優れた自然環境を保全し、将来にわたり継承していく必要がある地域として香川県自然環境保全条例により県内4か所を指定しています。この地域に指定された区域内では、宅地造成等の一定の行為は知事への許可又は届出が必要となります。三豊市では弥谷山自然環境保全地域が指定されており、この地域は四国霊場第71番札所のある弥谷寺があり、アカマツとウバメガシの極相に近い群落を形成しています。

また香川県自然環境保全条例では、市街地またはその周辺にある樹林地や丘陵、海岸、河川等について、生活環境を良好に保つために公益的な機能を保持しているとして、県内5か所の香川県緑地環境保全地域を指定しています。三豊市では七宝山緑地環境保全地域、小松尾山緑地環境保全地域、大水上緑地環境保全地域の3か所が指定されています。これらの保全地域は社寺林等により常緑広葉樹の群落が形成された豊かな植物相となっています。

表 3-2-1 三豊市の自然公園及び県自然環境保全地域等

指定区分	名称	所在及び指定年等
国立公園	瀬戸内海国立公園	荘内半島・粟島・大蔦島等、昭和9年
県自然環境保全地域	弥谷山自然環境保全地域	三野町大見(33.96ha)、昭和54年
県緑地環境保全地域	七宝山緑地環境保全地域	豊中町(50.95ha)、昭和51年
県緑地環境保全地域	小松尾山緑地環境保全地域	山本町辻(2.99ha)、昭和51年
県緑地環境保全地域	大水上緑地環境保全地域	高瀬町羽方(6.51ha)、昭和58年

資料：香川県HP

その他、香川県では香川県自然海浜保全条例に基づき、砂浜や岩礁等の状態が維持されている海浜地域について開発等による自然海浜の減少を防止し、これらの自然海浜の環境を保全することで将来にわたってレクリエーションの場としての適正な利用ができるよう、瀬戸内海国立公園区域を除いて自然海浜保全地区を指定しています。この地区に指定された区域内では、工作物の新築等の一定の行為は知事への届出が必要となります。三豊市では、詫間町の海岸線を中心に5か所が指定されています。これらの海岸線は大部分が防波堤も設置された半自然海岸ですが、周囲の山林等と調和した良好な自然景観であり、海水浴や釣りに多く利用されています。

表 3-2-2 三豊市の県自然海浜保全地区

名称	所在地	指定年
大浜自然海浜保全地区	詫間町大浜	昭和 58 年
鴨ノ越自然海浜保全地区	詫間町大浜	昭和 58 年
仁老浜自然海浜保全地区	詫間町生里	昭和 61 年
名部戸自然海浜保全地区	詫間町大浜、仁尾町家の浦	平成2年
室浜自然海浜保全地区	詫間町箱	平成4年

資料：香川県HP

(2) 植生及び植物群落

三豊市の植生はヤブツバキクラス域（暖温帯植生：常緑広葉樹林帯）であり、環境省の自然環境保全基礎調査（5万分の1植生図）では、代表的な現存植生として16区分が確認できます。三豊市は平野部では水田雑草群落をはじめとした農耕地や住宅地等が多くを占めていますが、丘陵地や山地ではアカマツ群落等の二次林が多くなっています。

また環境省の第6回・第7回自然環境保全基礎調査の植生調査により公開されている2万5千分の1植生図：仁尾の場合では、29区分の現存植生が確認できます。これによれば荘内半島等の丘陵地では、下部に畑地雑草群落をはじめとした農耕地があり、上部にアカマツ群落の中にシイ・カシ二次林とアベマキ-コナラ群集やネズ-アカマツ群集があるという、瀬戸内気候の区分では一般的な植生となっています。また丘陵地の一部にトベラ-ウバメガシ群集があるのも特徴です。財田川の上流部の山地では、アカマツ群落とスギ・ヒノキの植林地が広がっています。

表 3-2-3 三豊市の代表的な現存植生区分

No.	群落名	集約群落名	自然度
1	開放水域	開放水域	自然裸地
2	クロマツ群落	クロマツ群落	自然林
3	アカマツ群落	アカマツ群落	二次林
4	モウソウチク林	竹林	二次林
5	ススキ群団	ススキ群団	二次草原(背の高い草原)
6	落葉広葉樹植林	落葉広葉樹植林	植林地
7	常緑果樹園	常緑果樹園	農耕地(樹園地)
8	落葉果樹園	落葉果樹園	農耕地(樹園地)
9	茶畑	茶畑	農耕地(樹園地)
10	ゴルフ場	牧草地	農耕地(水田・畑)、緑の多い住宅地等
11	畑地雑草群落	畑地雑草群落	農耕地(水田・畑)、緑の多い住宅地等
12	水田雑草群落	水田雑草群落	農耕地(水田・畑)、緑の多い住宅地等
13	造成地、採石場、人為裸地、焼跡	造成地	市街地、造成地等
14	造成地	造成地	市街地、造成地等
15	工場地帯	工場地帯	市街地、造成地等
16	市街地	市街地	市街地、造成地等

資料：環境省自然環境保全基礎調査

■ 植生と植物群落の区分について

植 生：ある地域を覆っている植物体の総称。

植物群落：同一の場所で、ある種の単位性と個別性で一緒に生活している植物群を指す
便宜的な植生の単位。大きさや広がりについて特に規定はない。

現存植生：現実にそこに存在している植生。

クラス：群落単位の最上級にあるもの。例) ヤブツバキクラス

オーダー：群目とも呼ばれる。群落単位の高い次元にあるもの。

群 団：群落単位の一つ。群集とオーダーの間のランクになるもの。

群 集：特定の種で組成・生育条件等がある群落分類における基本の単位。

環境省の自然環境保全基礎調査では、現存植生の調査とは別に、(1) 原生林またはそれに近い自然林、(2) 極めて稀な植物群落または個体群、(3) 分布限界にみられる植物群落または個体群、(4) 特殊な立地に特有な植物群落または個体群で典型的なもの等の基準により、学術上重要な群落や保護を要する群落等をリストアップする「特定植物群落調査」が実施されています。三豊市では4件がリストアップされており、気候区分としての常緑広葉樹林に特徴があり、これらのリストアップされた地域は、香川県自然環境保全地域や香川県自然記念物等に指定されているものが多くなっています。

表 3-2-4 三豊市の特定植物群落

件名	集約群落名	選定基準	立地区分	ha
荘内半島のウバメガシ林	ウバメガシ群落	郷土景観	海岸付近	31.3
弥谷山のウバメガシ林	ウバメガシ群落	郷土景観	急崖地、岩壁	5
菅生神社の社叢(ツブラジイ)	サカキーコジイ群集	郷土景観	一般(気候立地)	1.1
巖島神社の社叢(タブノキ)	タブ群落	郷土景観	一般(気候立地)	0.02

資料：環境省自然環境保全基礎調査

(3) 自然景観

三豊市は、海岸景観から河川景観、山地景観まで多様な景観資源に恵まれています。環境省の自然環境保全基礎調査「自然景観資源調査」では、自然環境保全上重要な要素である自然景観について、基盤をなす地形や地質及び自然現象等の位置や特性等を調査しています。三豊市では、この調査により、26か所の自然景観資源が確認されています。荘内半島や島しょ部による海岸景観に特徴があり、瀬戸内国立公園の区域も多く含まれています。

表 3-2-5 三豊市の自然景観資源

類型	名称	自然景観資源名	位置	地区
山地(非火山性)景観	朝日山	非火山性孤峰(小地形)	下麻	高瀬
山地(非火山性)景観	東部山	非火山性孤峰(小地形)	上勝間	高瀬
山地(非火山性)景観	傾山	非火山性孤峰(小地形)	佐股	高瀬
山地(非火山性)景観	弥谷山	非火山性孤峰(小地形)	大見	三野
山地(非火山性)景観	爺神山	非火山性孤峰(小地形)	比地中	高瀬
山地(非火山性)景観	昆沙古山	非火山性孤峰(小地形)	大見	三野
山地(非火山性)景観	山条山	非火山性孤峰(小地形)	吉津	三野
山地(非火山性)景観	眉山	非火山性孤峰(小地形)	下勝間	高瀬
山地(非火山性)景観	妙見山	非火山性孤峰(小地形)	朝日	仁尾
山地(非火山性)景観	紫雲出山	非火山性孤峰(小地形)	荘内半島	詫間
山地(非火山性)景観	志保山	非火山性孤峰(小地形)	南草木	仁尾
海岸景観	不天州	砂嘴(小地形)	粟島の不天	詫間
海岸景観	牛ノ州	砂州(小地形)	粟島の下新田	詫間
海岸景観	東風浜	陸けい砂州(小地形)	粟島の西浜	詫間
海岸景観		陸けい砂州(小地形)	粟島の中新田	詫間
海岸景観		陸けい砂州(小地形)	高谷	詫間
海岸景観		陸けい砂州(小地形)	荘内半島中央部	詫間
海岸景観		海食崖(微地形)	粟島の北端	詫間
海岸景観		海食崖(微地形)	粟島の西岸	詫間
海岸景観		海食崖(微地形)	荘内半島先端の南岸	詫間
海岸景観		海食崖(微地形)	紫雲出山の南岸端	詫間
海岸景観		海食崖(微地形)	紫雲出山の南海岸	詫間
海岸景観		海食崖(微地形)	荘内半島の先端北岸	詫間
海岸景観		海食崖(微地形)	大鷲島の北西岸	仁尾
河川景観	不動の滝	滝(極微地形)	岡本	豊中
河川景観	鮎返りの滝	滝(極微地形)	戸川	財田

資料：環境省自然環境保全基礎調査

2 生物多様性の保全

三豊市の市域には、多様な自然環境により多くの動植物が生息しています。環境省の自然環境保全基礎調査及び旧町の町誌において動物種の記録がありますが、自然環境保全基礎調査は調査対象の分類が限定され、また調査時期が古い記録等も含まれるため、市域における動植物分布についての基礎資料の整備は不十分と言えます。

香川県では、県内に生息する野生動植物について、分布や生息等の現況を把握し、野生生物保護施策の基礎資料となることを目的に、香川県希少野生生物保護対策検討会が編纂した「香川県レッドデータブック」が平成16年に発行されています。香川県レッドデータブックは、環境アセスメント審査や野生生物保護対策の基礎資料として活用されます。

香川県レッドデータブックのカテゴリーは環境省の区分を基準として、現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合に野生での存続が困難な種を「絶滅危惧Ⅰ類」、現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合に近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられる種を「絶滅危惧Ⅱ類」として、希少性の高いランクが設定されています。三豊市で確認されている動植物種では、絶滅危惧Ⅰ類が55種、絶滅危惧Ⅱ類が72種確認されています。動植物の生息状況調査が進むに従い、これらのカテゴリーは変動する可能性があります。

また香川県では、希少野生生物を保護して生物の多様性を保全する取り組みとして、香川県希少野生生物の保護に関する条例を制定しています。これは香川県レッドデータブック掲載種のうち、保護を必要とする希少野生生物を、指定希少野生生物として、捕獲採取等の原則禁止による保護事業を進めるものです。三豊市で確認された動植物種のうち、指定希少野生生物となっているのは、オニバス（スイレン科）があります。

香川県レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類にランク付けされるオニバスは、大型の浮葉性一年生水草で、植物全体に鋭いとげがあります。花は紫色で半開き状態で咲き、晩秋に大型のとげの多い果実をつけます。やや富栄養化した平野部の溜池に生育し、水田で発生することもあります。全国的には香川県はオニバスの発生箇所の多い県ですが、平野部の溜池の極端な富栄養化やアメリカザリガニによる捕食などによって、毎年発生する溜池が減少しています。三豊市では高瀬町や豊中町等の溜池で確認されていましたが、近年は記録されていません。

香川県レッドデータブックに記載された三豊市で確認されている動植物が希少である要因については、マツバラン（マツバラン科：絶滅危惧Ⅰ類）やラン科植物のように森林開発だけでなく業者やマニアによる人為的な採取圧によって減少する種や、詫間の塩田跡地で生育するアツケシソウ（アカザ科：絶滅危惧Ⅰ類）のように生育する場所の構造変化や管理の放棄や変化によって減少する等、様々な理由があります。

動物種についても、1989年に高瀬町国市池での飛来記録があるだけで個体数がもともと少ないクロツラヘラサギ（トキ科：絶滅危惧Ⅰ類）と、本来は数多く生息していたものの農地改修

等の理由により減少したドジョウ（ドジョウ科：絶滅危惧Ⅱ類）では、その保護施策が大きく異なります。希少な動植物を保護していくには、単なる自然環境の変化だけではなく、人々の社会生活の変化が大きく動植物の生育状況に影響を与えることを考慮し、個々に対応していく必要があります。

表 3-2-6 三豊市で確認された香川県レッドデータ動植物（絶滅危惧Ⅰ類及びⅡ類）

分類	種名	希少性の主な要因	備考
絶滅危惧Ⅰ類			
植物	マツバラン	森林の開発、人為的な採取	
植物	コヒロハハナヤスリ	草地の減少、自然の遷移	
植物	ハイホラゴケ	産地が限られている、森林の開発	
植物	メヤブソテツ	森林の開発、自然の遷移	
植物	ツクシイワヘゴ	産地が限られている	近年記録なし
植物	ナガサキシダ	森林の開発、自然の遷移	
植物	ハルニレ	森林の開発	誤記録の可能性
植物	イワアカザ	海岸の開発、道路の建設	
植物	アツケシソウ	土地の造成	
植物	ヒメキカシグサ	農地の改修、耕作放棄地の増加	
植物	ハマネナシカズラ	海辺の開発、外来種の侵入	
植物	ヤマジソ	森林の開発、自然の遷移	
植物	ハマウツボ	堤防の改修、道路の改修	
植物	スナビキソウ	海浜の改修	
植物	イワギリソウ	森林の開発、人為的な採取	
植物	ヒメタヌキモ	水質汚濁、堤防の改修	
植物	サワシロギク	森林の開発	
植物	ノジギク	海岸の開発、道路の建設	
植物	オグルマ	河川の改修、土地の改変	
植物	ミヤコアザミ	林地の開発	
植物	ヒメヒゴタイ	森林の開発、自然の遷移	
植物	マルバオモダカ	溜池の回収、人為的な管理の放棄	
植物	トチカガミ	溜池や河川の改修	
植物	セキシウモ	溜池や河川の改修	
植物	ムサシモ	溜池の改修	

分類	種名	希少性の主な要因	備考
植物	イバラモ	溜池の改修	
植物	キジカクシ	森林の開発、道路の改修	
植物	ヒメユリ	森林の開発、人為的な採取	
植物	ミズアオイ	河川の改修、自然の遷移	
植物	コゴメカゼクサ	農地の改修、耕作放棄地の増加	
植物	ウンヌケモドキ	溜池の改修、人為的管理の放棄	
植物	ヒメミクリ	溜池の改修、人為的管理の放棄	
植物	ヒナラン	森林の開発、人為的な採取	
植物	ヤツシロラン	森林の開発、自然の遷移	
植物	フウラン	森林の開発、人為的な採取	
植物	サギソウ	人為的な採取、自然の遷移	
植物	ミズトンボ	森林の開発、人為的な採取	
鳥類	クロツラヘラサギ	繁殖地が限られている	
鳥類	ツクシガモ	もともと個体数が少ない	
鳥類	ハチクマ	森林の開発	
鳥類	オオタカ	松枯れ、森林の開発	種の保存法指定種
鳥類	サシバ	松枯れ、森林の開発	
鳥類	セイタカシギ	もともと個体数が少ない	
鳥類	コアジサシ	生息環境の悪化	
鳥類	サンショウクイ	森林の開発	
淡水魚類	ナガレホトケドジョウ	河川の改修、森林の開発	
淡水魚類	アカザ	河川改修、水質汚濁	
昆虫類	ハッチョウトンボ	湿地開発、自然遷移	生息状況不明
昆虫類	クロカナブン	個体数が寡少	誤記録の可能性
昆虫類	シルビアシジミ	食草群落の消失	近年の記録なし
昆虫類	オオウラギンヒョウモン	生息環境の悪化	近年の記録なし
淡水・陸産貝類	ミズコハクガイ	湿地の開発、水質汚濁	
淡水・陸産貝類	ナタネキササナギガイ	湿地の開発、水質汚濁	
淡水・陸産貝類	サドタカキビ	森林の開発	
淡水・陸産貝類	マツカサガイ	水路の改修、水質汚濁	
絶滅危惧Ⅱ類			
植物	エビガラシダ	森林の開発、自然の遷移	
植物	コウザキシダ	森林の開発、自然の遷移	

分類	種名	希少性の主な要因	備考
植物	ミヤコヤブソテツ	森林の開発、自然の遷移	
植物	コギシギシ	農地の改修、農薬の散布	
植物	サイコクイカリソウ	森林の開発、道路の改修	
植物	コウホネ	溜池の改修、人為的管理の放棄	
植物	オニバス	溜池の改修	香川県希少野生生物 近年の記録なし
植物	ヒツジグサ	生活排水、人為的な採取	
植物	フウトウカズラ	森林の開発、道路の改修	
植物	ヤマシャクヤク	人為的な採取、森林の開発	
植物	アゼオトギリ	農地の改修、耕作放棄地の増加	
植物	トウカイコモウセンゴケ	森林や湿地の開発、溜池の改修	
植物	シロヤマブキ	自然の遷移	
植物	フサモ	水質汚濁、溜池の改修や管理放棄	
植物	ミシマサイコ	森林の開発、人為的な採取	
植物	スズサイコ	河川の改修、人為的管理の放棄	
植物	ヒキヨモギ	森林の開発	
植物	イヌノフグリ	農地の改修、近似種との交雑	
植物	ノタヌキモ	水質汚濁、溜池の改修や管理放棄	
植物	ホザキノミミカキグサ	森林の開発、自然の遷移	
植物	サワギキョウ	森林の開発、自然の遷移	
植物	ウラギク	土地造成	
植物	スイラン	森林の開発、溜池の改修	
植物	アギナシ	溜池や農地の改修、水路の改修	
植物	イトモ	溜池や河川の改修	
植物	サガミトリゲモ	農地の改修、水質汚濁	
植物	トリゲモ	農地の改修、水質汚濁	
植物	ノハナショウブ	森林の開発、人為的な採取	
植物	ミノボロ	農地の改修	
植物	ユキモチソウ	人為的な採取	
植物	ナガエミクリ	農地の改修、人為的管理の放棄	
植物	ヒンジガヤツリ	農地の改修、人為的管理の変化	
植物	サンカクイ	河川の改修、人為的管理放棄	
植物	ギンラン	人為的な採取	

分類	種名	希少性の主な要因	備考
植物	キンラン	森林の開発、人為的な採取	
鳥類	ヨシゴイ	生息環境の悪化	
鳥類	ミゾゴイ	生息環境の悪化	
鳥類	クロサギ	人為的攪乱による繁殖障害	
鳥類	トモエガモ	生息環境の悪化	
鳥類	ハヤブサ	生息環境の悪化	
鳥類	ヒクイナ	農地の改修、湿地の減少	
鳥類	タマシギ	生息環境の悪化	
鳥類	イカルチドリ	生息地の限られている	
鳥類	ホウロクシギ	もともと個体数が少ない	
鳥類	ヨタカ	森林の開発、植林	
鳥類	ヤマセミ	河川の改修	
鳥類	アカショウビン	河川の改修	
両生類	カスミサンショウウオ	農地の改修、森林の開発	
両生類	オオダイガハラサンショウウオ	河川の改修、水質汚濁	
淡水魚類	ムギツク	河川の改修、水質汚濁	
淡水魚類	イトモロコ	河川の改修、水質汚濁	
淡水魚類	ドジョウ	農地の改修、農薬の散布	
淡水魚類	オオヨシノボリ	河川の改修	
淡水魚類	ルリヨシノボリ	河川の改修	
昆虫類	アジアイトトンボ	農地の改修、水路の改修	
昆虫類	ゲンバイトンボ	生息環境の悪化	
昆虫類	マイコアカネ	溜池や水路の改修	
昆虫類	ヒメアカネ	溜池や水路の改修	
昆虫類	アカマダラコガネ	もともと個体数が少ない	
昆虫類	ヨコモゾドロムシ	生息環境の悪化	
昆虫類	オオチャバネセセリ	人為的な管理の放棄	
昆虫類	ミドリシジミ	食草群落の消失	
昆虫類	ウラキンシジミ	里山環境の悪化	
昆虫類	ウラギンスジヒョウモン	草地の減少、人為的な管理の放棄	
昆虫類	クロヒカゲモドキ	落葉広葉樹林の減少	
昆虫類	キシヤチホコ	里山環境の悪化	
昆虫類	クビグロケンモン	生息環境の悪化	

分類	種名	希少性の主な要因	備考
淡水・陸産貝類	サナギガイ	生息環境の悪化	
淡水・陸産貝類	オオギセル	植林、森林の開発	
淡水・陸産貝類	シコクビロウドマイマイ	森林の開発	
淡水・陸産貝類	ツルギサンマイマイ	植林、森林の開発	
淡水・陸産貝類	アワマイマイ	森林の開発	

資料：香川県レッドデータブック、財田の自然

■レッドデータブックとは

レッドデータブックとは、絶滅のおそれのある野生生物の情報をとりまとめた本で、ほとんどの都道府県において、都道府県版のレッドデータブックが作成されている。

絶滅のおそれのある種は、種ごとの絶滅の危険性（カテゴリー）をランクづけされており、香川県レッドデータブックのカテゴリーは以下のとおりである。

- ・絶滅（過去に香川県に生息したことが確認されているが、現在は絶滅）
- ・野生絶滅（飼育下、栽培下では存続しているが、野生では絶滅）
- ・絶滅危惧Ⅰ類（絶滅の危機に瀕している種あるいは亜種）
- ・絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危機が増大している種あるいは亜種）
- ・準絶滅危惧（存続基盤がぜい弱な種あるいは亜種）
- ・情報不足（評価するだけの情報が不足しているが、今後注意を要するもの）

3 緑の保全と創出

三豊市の林野面積は 7,829ha（令和 2 年）で、これは香川県の林野面積の 9.0%にあたりません。

表 3-2-7 三豊市の林野面積

	林野面積（単位：ha）		
	総数	現況森林面積	森林以外の草生地（野草地）
香川県	87,183	87,076	107
三豊市	7,829	7,808	21
対県比率	9.0	9.0	19.6

資料：農林水産省HP

香川県の緑の保全に関する指定としては、文化財保護法や香川県文化財保護条例に基づき指定される文化財の天然記念物、香川県自然環境保全条例に基づき指定される香川県自然記念物があります。香川県自然記念物では、植物・地質・鉱物等で住民に親しまれているもの、由緒

のあるもの又は学習的価値のあるもののうち、その周辺の土地と一体となって良好な自然環境を形成しているものを指定しています。香川県自然記念物に指定されたものの現状を変更することや保存に影響を及ぼす行為は知事への届出が必要となります。三豊市では国指定天然記念物1件、県指定天然記念物1件、香川県自然記念物7件の指定があります。

表 3-2-8 三豊市の天然記念物と香川県自然記念物

区分	名称	所在地	指定年
国指定天然記念物	菅生神社叢	山本町辻	昭和 53 年
県指定天然記念物	志々島の大きくす	詫間町志々島	昭和 45 年
香川県自然記念物	小松尾寺のカヤ(植物)	山本町辻	昭和 51 年
香川県自然記念物	二宮のネズ(植物)	高瀬町羽方	昭和 51 年
香川県自然記念物	雨の宮神社社叢(植物)	財田町財田中	昭和 51 年
香川県自然記念物	巖島神社のタブ樹林(植物)	財田町財田上	昭和 51 年
香川県自然記念物	麻部神社社叢(植物)	高瀬町上麻	昭和 55 年
香川県自然記念物	荒魂神社社叢(植物)	財田町財田中	昭和 55 年
香川県自然記念物	津島神社の柱状節理(地形・地質)	三野町大見	平成元年

資料：香川県HP

また香川県ではふるさとの社寺林や校庭の大木など地域の象徴である樹木を良好な生活環境の保全と郷土の景観維持、緑化の推進の一助とするため、香川県における樹木の保存に関する要綱に基づき、香川の保存木を指定しています（表 3-2-9 参照）。

香川の保存木は、所有者など地域の人々の協力を得ながら大切に保存しています。三豊市では 22 件の指定があります。

表 3-2-9 三豊市の香川の保存木

名称	所在地	指定年
薬師院のイチヨウ	高瀬町下麻	昭和 55 年
池ノ谷のアラカシ	高瀬町上麻	昭和 55 年
古屋の大ガシ	高瀬町佐股	昭和 55 年
上高瀬小学校のユーカリ	高瀬町上高瀬	昭和 55 年
よりぞめさんのマキ	山本町河内	昭和 55 年
小松尾寺のクス	山本町辻	昭和 55 年
橋田邸のクロガネモチ	山本町辻	昭和 55 年
弥谷寺のバクチノキ	三野町大見	昭和 55 年
本門寺のクス	三野町下高瀬	昭和 55 年
若宮神社のクロガネモチ	豊中町本山	昭和 55 年
長寿院のサルスベリ	詫間町松崎	昭和 55 年
積の雌雄クロガネモチ	詫間町積	昭和 55 年
香蔵寺のソテツ	詫間町箱	昭和 55 年
常德寺の雌雄大ソテツ	仁尾町仁尾	昭和 55 年
細川邸のタブノキ	財田町財田中	昭和 55 年
品福寺のラカンマキ	財田町財田上	昭和 55 年
財田駅前タブノキ	財田町財田上	昭和 55 年
釈迦堂のイチヨウ	財田町財田上	昭和 55 年
高良神社のクスノキ	豊中町本山	昭和 60 年
室浜大明神のシンパク	詫間町箱	平成 2 年
梵音寺のタブノキ	詫間町粟島	平成 3 年
川江家のツバキ	詫間町生里	平成 12 年

資料：香川県HP

その他、香川県では平成16年、身近なみどりが再認識され、みどりを守り育てる気運や活動が広がっていくことを目的に、「香川のみどり百選」を選定しています。その選定では香川のみどりを、地形や自然的景観の特徴等で「市街地に近いみどり」「田園地帯のみどり」「瀬戸内のみどり」「讃岐山脈の水源の森」に区分し、三豊市では14か所が選定されています。その他にも、優れた水環境を広く紹介することで、各地域の保全活動を推進し、環境学習や憩いの場としての活用を図るため、香川県では「残したい香川の水環境50選」を平成12年に認定しています。三豊市では、7か所が認定されています。

表 3-2-10 三豊市の香川のみどり百選と残したい香川の水環境 50 選

分類	区分	名称・場所
香川のみどり百選	市街地に近いみどり	象頭山・大麻山・愛宕山
	市街地に近いみどり	五岳山
	田園地帯のみどり	雨宮神社
	田園地帯のみどり	朝日山
	田園地帯のみどり	大水上神社
	田園地帯のみどり	弥谷山
	田園地帯のみどり	貴峰山
	田園地帯のみどり	小松尾山
	田園地帯のみどり	七宝山
	田園地帯のみどり	紫雲出山
	瀬戸内のみどり	志々島
	瀬戸内のみどり	粟島
	瀬戸内のみどり	鳶島
	讃岐山脈の水源の森	中蓮寺峰
残したい香川の水環境 50 選	河川	宮川(大水上神社付近)
	ダム・ため池	逆瀬池
	海岸・島しょ	久保谷海岸
	河川	財田川(リバーサイドパーク付近)
	海岸・島しょ	鴨之越海岸
	海岸・島しょ	鳶島
	河川	溪道川・鮎返りの滝

資料：香川県HP